

# 小原台だより

VOL.1

平成6年1月1日

発行 防衛大学校同窓会

編集 土肥 弘実

印刷 (株)エイコーブリント



機関紙「ゆうかり」が生まれ変わりました。

新名称には青春の思い出である「小原台」を  
使い、読みやすく、内容も豊富になりました。



## 目 次

新 学 校 長 紹 介 ..... 1  
会 長 挨 拶 ..... 2

**特集「防大は今」** ..... 3

生活・教育の基準

最新の防大全景

学生舎・部屋

女子学生

校友会主要活動実績

※(財団法人設立断念について).....	6
※(将来構想検討委員会について).....	7
平成5年度同窓会行事 .....	11
平成4年度決算報告 .....	11
平成6年度予算支出計画 .....	12
事務局からのお知らせ .....	13
夏目前学校長退官記念 .....	14
パーティのお知らせ	
会費未納者数期別一覧 .....	14

## 学校長の略歴



昭和6年10月4日 誕生（愛媛県）  
昭和29年3月 東京大学教養学部教養学科 卒業  
昭和36年3月 慶應義塾大学大学院法学研究科  
政治学専攻博士課程修了  
昭和36年4月 慶應義塾大学法学部副手  
昭和37年4月 同 上 助手  
昭和40年4月 同 上 講師  
(現代東南アジア研究、国際政治論)  
昭和42年4月 同 上 助教授  
昭和47年4月 同 上 教授  
昭和48年10月 慶應義塾大学学生部長  
昭和50年9月 法学博士「中国の東南アジア政策」  
昭和52年4月 慶應義塾志木高等学校長  
昭和53年6月 慶應義塾理事  
昭和56年6月 慶應義塾常任理事  
平成5年6月 慶應義塾大学法学部教授  
平成5年10月 防衛大学校長

この間、日本国際政治学会理事長、アジア政経学会理事長、国際法学会評議員、大学基準協会理事代理、大学設置・学校法人審議会委員、日本学术会議会員、日本私立大学連盟副会長、中央教育審議会委員、国際開発学会理事、大学審議会組織運営部会特別委員、教育職員養成審議会委員などを歴任

## 御挨拶

防衛大学校長 松本三郎

年頭に当たり、全国、全世界で活躍されている同窓各位に心からお慶びの賀詞を申し上げます。

去年十月、夏目前学校長のあとを受け新学校長に就任して以来三ヶ月を経過しました。この間、自衛隊観閲式、防大開校記念祭等の華やかな行事をはさみつつ、着実に進められている防大教育の実態に親しく接することができ、防衛庁、自衛隊という大家族の一員としての認識を深めるとともに、将来のわが国防を担う幹部候補生養成機関としての防大のもつ役割的重要性をひしひしと身に感じているところであります。

ご承知のように今日の日本は、明治初期、第二次世界大戦直後期につづいて三度目のきわめて大きな社会変動期を迎えています。これからのがたが、また日本を取り巻く世界が、どのような方向に進むのか全く不透明で予測不可能な状態にあり、正に転換と模索の時代に入っているといえましょう。こうした中で、将来の日本の国防を担う幹部に期待されるのは、何よりも変化に正しく適応できる柔軟な思考・行動力と、積極的に新しいものを生み出すことのできる創造力であります。

すでに一般の大学でも、心ある大学は、こうした人材——二十一世紀の世界に通用する人材——を生み出すべく大改革をはじめています。防大もそれに遅れては

なりません。言うまでもなく慎智雄初代校長によつて確立された防大教育の基本理念は「優れた武人たるとともに良きジエントルマン（社会人）の育成」にあります。それは今日においてもいささかも搖さない改革を一段と進め、教職員一丸となつて新しい時代に相応しい教育研究体制を確立することが、私に課された責務と考えております。同窓各位のご理解とご協力をお願ひする次第であります。

さて、昭和三十二年に源を発した防大の同窓会もすでに三十七年を経過し、今や各地で活躍する同窓一万六千余名を数える大部隊に成長されたことは誠に慶賀にたえません。青春時代を共に過ごし、ハグカの附合いをした仲間が、同窓会で再会し、昔日を懐旧、今日を語れば話は盡きることなく、それは人生に大きな樂のよいと豊かさをもたらすことでしょう。正に論語に言う「有朋自遠方來不亦樂乎（友ありて遠方より来る、また樂しからずや）」そのものです。

また現役の学生諸君にとっても、同窓の先輩は、自分たちの将来の道標であります。先輩たちが、良きジエントルマンとしてプライド高く、いきいきと活躍している姿は、何にも増して自分たちの修練の励みとなりました。同窓各位のご健康、ご活躍と、同窓会のいよいよのご発展を祈念して、新年の御挨拶とさせていただきます。



# 特集

# 「防大は今」

## ◎ 生活・教育の基準

### 日課表

曜日 日課	月～金	日・土 ( ) は土曜日	曜日 日課	月～金	日・土 ( ) は土曜日
起 床	0630	0700	午後課業終了	1705	
日 朝 点 呼	0635	0705	国 旗 降 下	1705	
朝 食	0700-0745	0720-0800	課外活動終了	1815	
国 旗 揭 揚	0805		夕 食	1800-1900	1700-1800
朝 礼	0805		入 浴	1705-1930	
午前課業開始	0830		自 習 時 間	2000-2210	
午前課業終了	1140		日 夕 点 呼	2220	2220(2320)
昼 食	1200	1130-1230	消 灯	2230	2230(2330)
午後課業開始	1300		外 出 時 間		0800-2220 (0800-2320)

### 学生の外出について

特別外出(外泊)	
学年	年度回数
4	制限なし
3	16回
2	11回

平 日 外 出
第4学年は、平日の課業終了後、外出することができる。

### 教育課程の主要な変更

- 履修単位制を廃止し、卒業に必要な単位のみを取得すればよいこととした。
- 選択制度を大幅に導入した。(選択できる割合: 理工学専攻11%⇒48%、人・社専攻23%⇒46%)
- 理工学専攻の6専門を14学科に、社会科学専攻を2学科とした。

### 本学科一覧

理工学専攻												人文社会科学専攻			
数学	地 球 学	電 气 工 学	電 子 工 学	通 信 工 学	機 械 工 学	精 密 機 械 工 学	機 械 シス テム 工 学	土 木 工 学	応 用 化 学	応 用 物 理	航 空 宇 宙 工 学	情 報 工 学	材 料 物 性 工 学	管 理 学	国際関係学科
物 理 学 科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科

### 教育課程の主要な変更

- 訓練課程総時間を1176時間から171時間(約15%)削除して、1005時間とした。  
(新カリキュラムへの移行は平成3年度に完了した。)

# 最新の防大全景



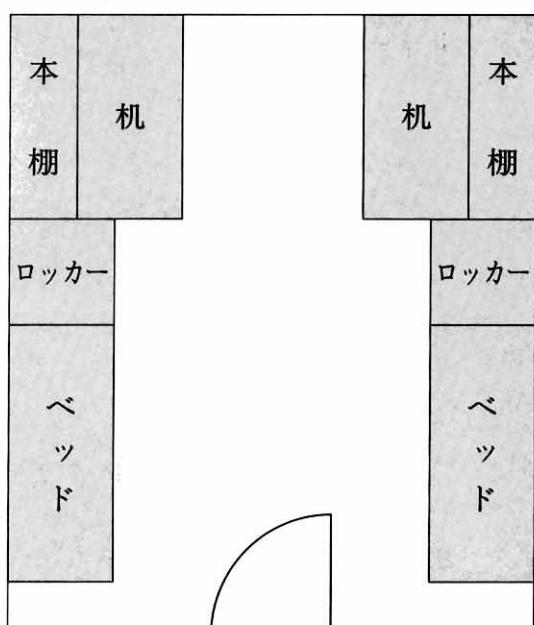


### 8号学生会（女子受入）平面図

ブラインド取付箇所 ○印  
空気調和装置設置箇所 凡例 太線内

### 各学生会又は大隊に 1 室 ☆印

## 二人部屋見取図



廊下側

## 「財団法人設立断念」について

経緯

うという動きが起り、そのためには財団法人化が必要ということになつて、五十八年財団法人設立委員会が設置され、翌年にその基本財産として一億円

示され、その受諾をめぐり、委員の意見が二分し結論が出ませんでした。折から、防衛人材確保協会においても賛助会員の応募が思ったよりも少なく、財団法人問題を根本から考えなければならぬ事態となりました。

そこで、毎年六月末に臨時評議員会が召集され、財団法人問題は断念し、財団法人設立委員会も解散することが提案され、議決されるに至りました。

二 断念理由

## (一) 防衛人材確保協会の設立断念

ア 賛助会員応募率が二〇%強で

これは、同窓生の賛同を得られる  
とはいひ難い。

イ 有効な収益事業の具体化がで

きない。

## (二) 防衛交流協会への不参画

ア 同窓会の目的と事業内容



## 「将来構想検討委員会」について

### 一 経緯

昨年六月三十日に財団法人設立に関する臨時評議員会が開催され、財団法人設立委員会の解散が議決されるに至りましたが、そのおりに防衛大学校同窓会として、今後の事業の在り方について、長中期的見地から検討する必要性が提起されました。

このため、会長を中心に事業推進検討委員会（仮称）として所要の準備が進められ、その作業の中で検討対象の範囲を広げ、名称についても「将来構想検討委員会」とする案が生まれました。

そして同十月二十五日に開催された評議員会において討議に付されたうえで決定され、十一月十三日防衛大学校第四十一回開校記念祭に併せて行われた総会において承認されるに至りました。

なお、この委員会の細部については次のとおりであります。

### 二 目的

防衛大学校同窓会のあるべき姿を明らかにし、今後の運営の在り方について、長中期的見地から、構想及び運営計画を策定する。

### 三 主検討項目

- (一) 同窓会の活動範囲及び事業
- (二) 同窓会組織の検討・確立
- (三) 会則の抜本的見直し

### 四 委員

定年に達した四期生までの期から陸・海・空各一名（期生会長推薦）及び小原台クラブから二名

（尚、来年度からは五期生も参加）  
 委員長 志摩 篤氏（一期）  
 事務局長 君嶋 信氏（三期）

### 五 最終答定期限

平成八年三月三十一日

# 女子学生



平成四年四月に初めて女子学生を受け入れてから二年、今年度からは、二学年として陸海空自衛官要員に指定されました。



一・二学年共、男子の一割弱と少數ですが、男子学生に負けず劣らず頑張っています。  
この新しい後輩たちの表情と各要員訓練（二学年）・入校（一学年）の感想を一部御紹介いたします。



## 夏季定期訓練で得たもの

### 防大二三三小隊

二学年陸上要員 平松 千枝

雨の北海道、夏とは思えぬ寒さの中、昼夜戦闘訓練は続いた。移動は駆け足、小銃を握りしめ泥に塗れて這いまわる。ほふくで手足は擦り傷、痣だらけ。ドーランで肌は荒れ放題。訓練の終り頃には、みんな女とは思えぬ出で立ちになっていた。

「男女同じ訓練内容をこなし、決して手は抜かせない」そんな意識が男子の中に、そして女子の中にある。「男子に負けてはいけない」そんなプレッシャーが私達の疲れに拍車をかけた。

「女なのにどうして…」そんな言葉が思わず洩れてしまう程だった。そんな私達を支えてくれたのは、同じ班の男子であり教官であり助教の方々であった。一人一人のほんの僅かな心遣い。それは、女子だけでなく班全体を込み込んだ。全員が強い絆で結ばれ、班の団結が日に日に深まつていくを感じた。

全てを自分たちの力で運用していく、それは並大抵の事ではない。しかし、そこから強い絆と団結は生まれてくる。それを目の当たりにした私は、「陸上要員になって良かったな」そう感じた。そして、夏季定期訓練での一番の収穫は、そう思えるようになつた自分自身だと私は思う。

## 要員訓練を終えて

### 防大二四二小隊

二学年海上要員 永原 炎

夏季定期訓練から、既に四ヶ月が経過している。海上要員としては、ポンドでの訓練と乗艦実習との、大きく分けて二つの訓練を終えた。月日が経てば忘れるもので、蓄えたはずの知識も殆ど残っていない。だが、特に乗艦実習においての海上勤務に対する概念把握、伝統的慣習体験等、体得したものも少なくない。私自身、最もよく記憶している乗艦実習を主とした感想を述べようと思う。

一番の収穫は、乗艦されていた女性幹部の方とお話しできた事、艦内での仕事ぶりを目の当たりにできた事である。事務以外の場で女性の方が勤務されているのを見たのは初めてであり、将来的展望が開けた気がした。今は艦艇勤務の他、パイロットへの道も開ける等、女性の職域も大分広がった訳であるが、補給長として働く彼女の果たした役割の大きさを改めて感じた。

素晴らしい先駆者の開拓されたレールを伸ばし、また岐路を増やす事が、私達に与えられた課題であろう。今定訓で得たものを来夏に生かし、よりよいものとなるよう、一層の努力をしていきたい。

航空要員としてはまだひよっ子

## 夏季定期訓練を終えて

### 防大二四三小隊

二学年航空要員 鈴木 浩子

航空要員として初の部隊実習は、誰にとつてもきっとそうであつたようになつた。また、将来パイロットになることを希望している私にとっては、この実習が、パイロットへの思いを一層強め、これまで漠然としていたパイロットへの未来予想図を、一步踏み出していくことを希望する私にとっては間違いない。

初めてC-130のコックピットから雲の上の世界を見渡した時のあの感動、実際に操縦席に座り操縦桿を握ったときのあの感激、きっと忘れないだろう。そしてその時思った「絶対パイロットになりたい。」という気持ちちはこれから先、何よりも強く自分を支えていくことになるだろう。私の実習先は美保基地であったのだが、偶然にも私が幹候校を卒業する頃には、美保は輸送機のPコース課程で必ず一年余りの教育を受けなければならぬ場所となる。そういったことを話しながら必ずまた美保に戻つてくることを、お世話になつたWAFの方に約束した。

航空要員としてはまだひよっ子の私達は、実習先でお役に立てることなく、ただただ御迷惑をおかけするばかりであったが、それでも親切に好意的に面倒を見て下さつた部隊の方々の優しさに、大変感謝しています。

## 負けるな！防大女子学生

### 防大二四二小隊

一学年 石田 加奈

平成五年四月に入校した防大四十一期生の石田加奈です。  
早いもので私が防衛大学校女子学生と呼ばれ続けて八ヶ月が過ぎました。実のところ途中幾度となく「普通の女子大生になりたい。」と思つたこともあります。というのも自分が考えていた以上に女子学生と女子大生にはかなりの違いがあるのです。少々オーバーですが私にとっては聞くも涙、語るも涙、涙、涙の八ヶ月と言えるかも知れません。

私と同年代の女性はといえば、おしゃれもしたい年頃です。ファッショソ雜誌は買つてはみますが、私服は着れないのみか、校内の男子学生からは、女子の夏制服はサフアリパークのお姉ちゃんなどと言われ、訓練指導教官からは乙武裝が似合うとほめられ?喜んでよいものか、悲しむべきなのか悩んでしまいます。パレード訓練でたくましく育つた右腕に、食べる事が唯一の娛樂となつてしまつたために形成された肉づきの良すぎる体を付け加えて、時には「女の幸福」についてふと考え込んだりもしました。

とは申しましても、やはり将来、幹部自衛官になるべく、ある面では女を捨て、開き直つてがんばつています。夢は、防大生数、男女同率。

防大女子学生に、夢多かれ！

## 平成5年度校友会主要活動実績

【凡例】1全般成果：☆上昇，★下降  
2昨年度との比較：↑上，→同じ，↓下

連番	部名	全日本クラス	関東クラス	県クラス(その他)
☆1	短艇委員会	全日本カッター競技会 1位/13校↑	関東カッター新人戦 1位/6校↑	
2	バスケットボール部		関東学生リーグ 14位/6校↓	神奈川リーグ 2位/2部
3	柔道部		関東学生優勝大会 3回戦敗退↓	神奈川学生大会 3位/1部↑
4	ラグビー部		関東学生リーグ2部7位 3部落↓	
5	サッカー部			神奈川学生上位リーグ 2位/4校→
6	剣道部	全日本学生選手権大会出場	関東学生優勝大会 2回戦敗退↓ 関東理工系 準々決勝敗退→	神奈川学生大会 団体予選敗退 個人優勝
7	空手道部	全国空手道選手権 2回戦敗退↓ 全日本選手権大会 32位/89校→	関東大学選手権 2回戦敗退↓ 関東学生定期リーグ 2位/2部↑	神奈川県選手権大会 有級組手 優勝↑
☆8	バレーボール部		関東学生リーグ 1位/8部 7部上↑	神奈川大学選手権 4位/1部↑
★9	卓球部		関東学生リーグ 5位/5部 6部落↓	
10	陸上競技部		関東学生競技 100M 防衛大新↑ 関東理工系 総合4位/61校↓ 東日本駅伝 28位/771チーム↑	神奈川選手権大会 顕著な記録なし↓
★11	硬式庭球部		関東理工科 4位/7部 8部落↓ 関東学生リーグ 2位/10部→	
☆12	硬式野球部			神奈川リーグ 1位/2部 1部上↑
13	射撃部	全日本学生選手権 3姿勢8位, 伏射10位/72校↑	関東学生選手権 10位/31校→	
14	水泳部		関東リーグ水球 5位/3部 4部落↓ 東日本理工系競泳 総合優勝↑ 東部国公立競泳 総合2位↑	
15	ハンドボール部		関東学生リーグ 3位/6部↓	
☆16	アメリカンフットボール部		関東学生リーグ2部優勝 2部残留	
17	ヨット部(クルーザー)	全日本ポイントレース		
18	ヨット部(小型)		関東学生選手権 23位/25校↓	神奈川5大戦 470級5位↓
19	銃剣道部	全日本優勝大会 準優勝→ 全国並北陸大会 準優勝→	全関東大学選手権 3位/8校↓ ： 新人戦 優勝/8校↑	神奈川団体予選 予選落ち→ 神奈川短剣道 団体/個人優勝↑
20	ソフトテニス部		関東大学対抗戦 ベスト32↑ 関東学生リーグ 2位/10部→	神奈川BC級大会 3位/10校→ 神奈川リーグ 3位/10校→
21	ボクシング部		関東学生トーナメント 3位/4部↓	
22	レスリング部		東日本学生リーグ2部 4位/8校↓ 東日本新人戦 1位 ソクラテスカップ 1位	
23	ボート部	全日本選手権 3位/3艇↑	関東新人戦 シングルスカル6位↑ 5大学レガッタ フォア3位↑	
24	フィールドホッケー部		関東学生リーグ 3位/2部→	
☆25	パラシュート部	全日本選手権(ジュニアの部) ↑ 1位 2位		
26	準硬式野球部			神奈川6大戦 3位/6校→
27	弓道部		南関東トーナメント 団体優勝↑ 南関東リーグ戦 男1部 女3部→	
☆28	少林寺拳法部	全日本学生大会 団体演武1位→	関東学生大会 团体演武1位↑ 段外の部2位↑	神奈川大会 团体演武1位↑
★29	フェンシング部		関東学生リーグエペ・フルーレ4部↓ サーブル 3部→	
30	ウェイトリフティング部			神奈川新進大会 2位↑
31	相撲部	全国国公立大学対抗新人戦 ↑ 2位 3位 全国学生選手権 Cリーグ3位→	東日本学生リーグB 9位 C落ち↓	
32	バトミントン部		関東学生リーグ 3位/6部→	神奈川リーグB 2位↑
33	体操部		関東理工系大会 4位/8校↑	
34	自動車部		JACSラリー 4位/10台↑	
☆35	グライダー部	久住山岳滑翔大会(個人) 1位		
36	新聞委員会			新聞「小原台」の発行
37	雑誌委員会			雑誌「小原台」の発行
38	茶道部			定例鎌倉茶会
39	吹奏楽部			定期演奏会
40	音楽部			定期演奏会

**平成5年度同窓会行事**

六月 臨時評議員会

財団法人設立断念

財団法人設立委員会解散

十月 評議員会

将来構想検討委員会設置議決

平成四年度決算報告

平成六年度予算案審議

十一月 頌彰碑献花式

平成四年十月二十七日茨木

市北方海上で墜落殉職された故 加藤和人 三等空佐の御遺族の参列を賜り、しめやかに執り行われました。

総会

将来構想検討委員会承認

平成四年度決算報告承認

平成六年度予算案承認

機関紙の充実案承認

二月 夏目前校長退官

記念パーティー

〔平成六年二月十一日（金）

一八〇〇一～二〇〇〇

高輪プリンスホテル

（東京・品川）】

## 平成4年度決算報告

防大同窓会経理部  
平成5年11月13日  
(単位 円)

担当部	項目	予 算	実 績	備 考
取 入	前 年 度 繰 越 金	2 3 0, 5 0 5, 4 3 8	2 3 3, 8 1 7, 7 7 2	
	会 費	2 2, 9 1 8, 3 5 8	2 0, 0 8 4, 0 4 2	
	名 簿	8, 0 0 0, 0 0 0	8, 4 2 9, 4 9 7	
	そ の 他 (利 息 等)	1 3, 6 9 4, 2 3 3	1 5, 1 5 6, 0 8 6	
	合 計	2 7 5, 1 1 8, 0 2 9	2 7 7, 6 0 0, 3 9 7	
支 出	事 業 部	7, 2 8 0, 0 0 0	5, 2 1 1, 3 3 9	5年度へ繰越金細部 定期： 2 1 7 4 1 6 1 8 5 普通： 5 2 0 0 4 1 5 名簿： 8 4 2 9 4 9 7 共済： 2 4 3 3 1 5 4 現金： 2 8 7 2 8 1 合計： 2 3 3 7 6 6 5 3 2
	総 務 部	4, 4 2 7, 2 0 0	3, 1 9 6, 9 6 7	
	編 集 部	8 5 0, 0 0 0	7 3 0, 9 1 7	
	人 事 部	2 5, 0 0 0, 0 0 0	2 9, 7 2 7, 3 0 3	
	経 理 部	6, 0 3 7, 4 0 0	3, 2 5 3, 1 0 3	
	法 人 設 立 準 備 委 員 会	1 0 1, 0 0 0, 0 0 0	1, 6 0 0, 4 1 2	
	小 計	1 4 4, 5 9 4, 6 0 0	4 3, 7 2 0, 8 6 5	
	残 金 (5年 級部 度へ繰 越 金)	1 3 0, 5 2 3, 4 2 9	2 3 3, 7 6 6, 5 3 2	
	合 計	2 7 5, 1 1 8, 0 2 9	2 7 7, 6 0 0, 3 9 7	

# 平成 6 年度予算支出計画（細部）

防大同窓会経理部  
平成 5 年 11 月 13 日  
(単位 円)

	科 目	予 算	5 年 度 比	摘 要
事 業 部	総会費 (会場設営費) (支部代表旅費) (通信費) (印刷費)	1, 500, 000 800, 000 100, 000 400, 000	- 680, 000	
	期生会支援費 (42期生会助成) (39期生会助成) (各期生会助成)	100, 000 100, 000 1, 000, 000		
	校友会对外活動助成費	1, 000, 000		
	開校祭助成費	2, 000, 000		
	小 計	7, 000, 000		
総 務 部	顕彰碑献花式費 顕彰室整備支援費 慶弔費 (弔慰) (供花)	600, 000 300, 000 700, 000 350, 000	+ 50, 000	
	職員定年退職者記念品費	100, 000		
	事務通信費	20, 000		
	コピー機賃貸料	120, 000		
	電話・FAX維持費	360, 000		
	東京事務所運営費 (室賃料等) (会議費) (事務通信費) (人件費)	1, 200, 000 240, 000 240, 000 1, 500, 000		
	評議委員会運営費	500, 000		
	小 計	6, 230, 000		
編 集 部	機関誌発行費 (作成) (発送)	500, 000 900, 000 50, 000	+ 250, 000 + 350, 000	「機関誌」の充実
	事務通信費	1, 450, 000	+ 600, 000	
	小 計			
人 事 部	事務通信費	100, 000		
	小 計	100, 000		
経 理 部	会長運営費 事務員雇用費 事務費 通信費 交通費 会議費 予備費	650, 000 2, 000, 000 300, 000 350, 000 150, 000 200, 000 3, 000, 000	- 200, 000 + 150, 000 + 1, 000, 000	予備：期生会長活動費、前学 校長退官記念パーティ費用
	小 計	6, 650, 000		
新 規	将来構想検討委員会活動費	1, 000, 000		
	小 計	1, 000, 000		
合 計		22, 430, 000	+ 920, 000	

# 事務局からのお知らせ

## 出版物のお知らせ

### 編集部から

#### 同窓会名簿について

##### ◎ お詫び

平成四年度版同窓会名簿の中で、次の方が誤って「逝去」となっています。

謹んでお詫び申し上げますとともに

お手持ち名簿を御訂正下さいますよう御願い申し上げます。

六期 航空 高橋俊雄様

〔四六八頁 下から五番目〕

二十期 陸上 大庭満様

〔一七三頁 上から十二番目〕

##### ◎ 代金の納入

名簿代金の納入通知の中で、一部口座番号の誤りがあり、大変御迷惑をおかけしました。

なお、十月末現在で約70%しか回収されておりません。未納の方は一部につき二千円を左記口座に御振込下さい。

第一勵業銀行 横須賀堺の内支店  
普通預金 1315034

口座名 横須賀市走水一一一一一  
防衛大学校同窓会  
TEL ○四六六(四一)三八一〇  
〔四年度名簿には在庫があります。  
希望者は事務局まで御連絡下さい。〕

TEL ○四六六(四一)三八一〇  
(内線 二四一七)

FAX ○四六八一四四一五九一〇  
(材料物性教室のFAXです。)

送料 五百円  
希望者は事務局まで御連絡下さい。

##### 「鈴木桃太郎先生追悼集」

鈴木桃太郎先生追悼集編集委員会編集  
A五判四百三十二頁 発行価格二千円  
(非売品)

本追悼集は、一昨年八月に亡くなられた初代副校長鈴木桃太郎先生を偲び

先生の御遺稿及び本校卒業生をはじめとする多数の教え子並びにその他先生の御薰陶に接した多くの人々による思い出から構成されています。

本書は、本校の初期の理想を追究する上での第一級資料でもあり、先生の教えに直接触れることができなかつた方にとっても有意義なものです。

そのため、紙面を以前のタブロイド判一枚の新聞形式からA4判十六枚の雑誌形式とし、内容を充実させるとともにビジュアル化しました。

また、以前の「ゆうかり」という名称は、ゆうかりの木が校内に数多く植えられていた初期の卒業生には、馴染み深いものでしたが、成長は早いが大きくなるとあまり見栄えのしないこの木は、桜、松などにとつて代られ現在ではほとんど残っていない、最近の卒業生にとっては、母校を連想させる名稱ではなくなってしまいました。そこで、新名称について昨年十月に行われました評議員会に諮った結果、四期海上評議員小今井氏御発案による本名称に決定いたしました。

#### 事務局連絡先

〒113-9 横須賀市走水

一一一一二十一

防衛大学校 同窓会事務局

TEL ○四六八一四一一三八一〇

内線二七〇七

FAX ○四六八一四四一三三〇一

専用線 八一四〇一二七〇七

東京分室連絡先

〒106 東京都港区六本木七一十八一

十八

防衛大学校同窓会東京分室

(代表) 福田光信 (一期)

TEL ○三一三四七九一九一五四  
専用線 八一三一一五七四五

同窓会機関紙が本号から刷新され、名称も「ゆうかり」改め「小原台だより」となりました。その理由の第一は同窓会の方針及び活動について会員の皆様に周知徹底を図り、同窓会としての意思決定を迅速かつ確実にするためです。

平成五年十月二十五日評議員会承認

職名	氏名	期別	要員	勤務先	電話
会長	中尾時久	1(陸)	日本工機㈱	03-3436-1223	
副会長	安岡義純	5(空)	防大電気工学	専 8-40-2272	
副会長	阿部英輔	6(陸)	陸幕監理部	専 8-33-2410	
理事(法務担当)	菅沼祐亨	1(空)	菅沼法律事務所	03-3465-1650	
理事(会計担当)	後藤薫	1(陸)	後藤会計事務所	0423-74-4759	
理事(総務担当)	松村嘉夫	1(空)	三菱重工㈱	03-3202-2295	
理事(総務担当)	中村義一	2(陸)	防大材料物性工学	専 8-40-2381	
副事務局長	鈴木弘	21(陸)	防大3大隊事務室	専 8-40-2735	
総務部長	佐伯義次	25(陸)	防大33中隊	専 8-40-2733	
人事部長	野村孝善	25(陸)	防大23中隊	専 8-40-2723	
経理部長	西郷賢二郎	23(陸)	防大42中隊	専 8-40-2742	
事業部長	宮崎守	25(海)	防大44中隊	専 8-40-2744	
編集部長	土肥弘実	25(海)	防大21中隊	専 8-40-2721	

# 夏目前校長退官記念パーティーについて

## 主旨

前防衛大學校長 夏目晴雄先生が去る九月三十日付をもつて退官されました。先生は昭和六十二年三月防衛大學校長に就任され、爾来、五年半もの間、熱心に學校の發展と學生の教育指導に尽力されるとともに、入試制度改革、女子學生受入れ、卒業時の学士・修士号付与など多くの御功績を残されました。

この度の御退官にあたり、防衛大學校同窓会としましてこれまでの御苦勞と御厚誼に謝意を表し、先生の今後の御健勝と御發展を祈念致したく、送別の宴を催すとともに記念品を贈呈すべく左記のとおり計画致しました。当主旨に御賛同いただき、奮るつて御参加下さいますよう御案内申し上げます。

一 退官記念パーティー  
二 日 時 平成六年二月十一日（建国記念日）

一八〇〇～二〇〇〇

(一) 場所 高輪プリンスホテル（東京品川）

一〇、〇〇〇（当日徵收取致します。）

(二) 会費 所

(三) 御申込 平成六年一月十五日までに事務局まで御送り下さい。

二 記念品代  
三 申込単位  
四 申込方法

一口 一、〇〇〇円

別送の御芳名簿に御記入の上、記念品代を添えて事務局まで御送り下さい。

銀行口座を御利用される方は次の口座を御利用下さい。

第一勧業銀行横須賀堀内支店 口座番号  
1353130 防衛大學校同窓会

## 会費未納者数期別一覧

(5. 12. 10 現在)

期別	会員数	完納者数	完納率%	未 納 者				期別	会員数	完納者数	完納率%	未 納 者			
				陸	海	空	計					陸	海	空	計
1	340	316	93	14	7	3	24	20	383	347	91	20	3	13	36
2	359	340	95	12	5	2	19	21	489	465	95	13	5	6	24
3	484	443	92	21	13	7	41	22	473	401	85	35	10	27	72
4	463	424	92	27	10	2	39	23	414	390	94	8	8	8	24
5	528	467	88	33	16	12	61	24	446	411	92	9	19	7	35
6	479	411	86	48	13	7	68	25	419	389	93	15	7	8	30
7	504	449	89	36	10	9	55	26	505	460	91	31	8	6	45
8	466	408	88	42	11	5	58	27	388	375	97	10	1	2	13
9	498	428	86	44	13	13	70	28	451	419	93	17	8	7	32
10	498	440	88	31	14	13	58	29	391	353	90	18	9	11	38
11	495	442	89	30	10	13	53	30	410	337	82	54	13	6	73
12	466	392	84	38	21	15	74	31	430	407	95	15	7	1	23
13	467	387	83	54	14	12	80	32	404	347	86	33	14	10	57
14	491	453	92	23	2	13	38	33	448	373	83	46	20	9	75
15	461	437	95	16	4	4	24	34	427	371	87	41	9	6	56
16	428	400	93	11	6	11	28	35	496	475	96	12	6	3	21
17	497	447	90	23	11	16	50	36	354	343	97	7	2	2	11
18	422	394	93	9	7	12	28	37	384	341	89	18	8	17	43
19	446	407	91	14	23	2	39	合計	16,504	14,889	90.2	928	367	320	1,615